



## 3歳児の特徴

## イチチョマエ!が誇らしい

例えば・・・  
3歳児にとっての運動会は、いつ開催されても大丈夫。やったことがなくても「跳び箱跳べよ」と言えちゃう。



- 一人前になんでもできる  
と感じる自信に満ちている。

「イチチョマエなのよね」と言ってくれる大人がいることが大事。  
根拠のない自信を認めてあげよう。

- 友達から認められることに嬉しさ  
を感じ、誇らしさを抱く。

保育者は毎日楽しく、子どもと一緒に  
ポジティブに過ごすことが大事。



自分のボタンは  
はめていないのに、  
友達のボタンを  
はめてあげようと  
する。

## おもしろいことにしか 興味がない

- 直観で物事の本質を捉える。

大人からすると思えないことを  
する子どもたちの行動は、正当な学び  
である。  
その行動を止められても「なんで？」と  
ばかりにキョトンとしている。

「直観」とは、短くて、刹那的な気付きで  
あり、感情と知性が一体化している状態  
で切り離すことが出来ないこと。「考  
えていることがわかりやすい」3歳児の  
姿である。



机の上から飛び降りる・・・  
「なぜこんなに楽しいことを  
しているのに、怒っている  
の？」とでも言いたそうに大  
人の視線を感じている。

バレバレの変装が  
ちょうどいい。オバケや  
オオカミに変装してい  
るのは、〇〇先生とわかっ  
ているのに怖い。

## うれしさと楽しさの源泉 「ボーダレス」

- 自分とまわりとの  
境があいまいである。

平行遊びをしても、周りの遊びも  
気になって見たり、真似たりする。また、泣い  
ている自分が外から見られていることに気  
付き始めたりする。

- 相手の喜びや悲しみも我がこと  
として存在している。

何がそんなにおもしろいのか、友達  
と一緒に笑いあっていることもある。



怖くて泣いていたのに、  
「私ね、オオカミにいい子  
いい子してもらったの」と  
言い切る姿もある。

# 生き物との出会いをおもしろがる保育をしよう



## \*\*\* なぜ生き物をつかまえるのか? \*\*\*

- \*1,2歳の頃は生き物を見つけると食い入るように見つめる姿が見られる。
- \*手にした虫を握りつぶしてしまうことが多い。



- \*3歳児は、身体のどこかで「自分と同じ生き物としての命」を感じ始める時期。変容の時期といえる。
- \*自分から見えている世界だけでなく、「虫から見えている世界」を想像できるようになる。

## \*\*\* 見えないドキドキを味わうことで得るものとは? \*\*\*



### 生き物にさわる経験から 集中力が育つ

生き物の素早い動きは、一歩先をよむ直観を働かせ、集中力が育つ。観察する経験から怖さがなくなる。

### 見よう見まねでやってみようという気持ちが育つ

子どもたちの目の前で見せている保育者の行動を、子どもたちは真似をする。保育者は子どもたちの憧れである。

### 姿の見えない生き物に対する 想像の世界が広がる

見えないものを手探りで探す怖さは、子どもたちの生き物に向かうエネルギーを高め、想像力を働かせる。

### ザリガニ取りを例にとって 見てみると…

### 失敗や不成功の経験を通して 賢さや誇らしさが育つ

ザリガニに指を挟まれてしまったら…「痛み」の経験は、「次は慎重にしよう」という賢さにつながる。



## 3歳児のごっこ遊び



\*劇の台本には、セリフ以外の登場人物の動作や心情などを表わす“ト書き”が書かれている。3歳児のごっこ遊びはト書きがなくても遊べるのが特徴である。

\*「〇〇君危ないよ」と声を掛けられたら、「大丈夫、だって僕は消防士だもん」と答えたりする。自分自身でありながら、消防士でもあるような姿を**融合状態**という。

## 研修生の報告書より

3歳児がおもしろがり、熱中していたりする時の視線に合わせてみると、それまで気付けずにいた子どもの気質や思いなど小さなことでも気付くことができた。

イチヨマエを意識することで、成功や失敗よりも、やったことに意味があるということを改めて確認することができた。子どもたちとの会話や手伝いの中に笑顔が増えた。

